国際理解教育/開発教育　学習指導(活動)案

【実践者】

授業者氏名	早川　千恵子	学校名	長野市立　浅川小学校
教科(科目)・領域	生活(8)・道徳(1)・ 学級活動(1)	対象学年(人数)	1年2組(23名)
実践年月日もしくは期間(時数)		2025年9月～12月(10時間)　11月12日(水)3校時	

【実践概要】

1. 単元名(活動名): 大豆を通じて　みんなとつながる　世界とつながる

2. 実践する教科・領域

3. 学習領域

	1	2	3	4
A 多文化共生	文化理解	文化交流	多文化共生	
B グローバル社会	相互依存	情報化		
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	

4. 単元の目標(評価規準を意識して設定)

身近な食べものである大豆から，世界とのつながりを知り，世界と身近な生活とのかかわりについて自分たちが感じたことや考えを伝え合い，互いの考えを認め合う。

5. 単元の評価規準

①知識・技能	自分たちの生活に身近な大豆が世界とどのようにつながっているかを知る。 自分の考えたことをグループや大豆サミットを通じて，意見交換している。
②思考・判断・表現	世界で暮らす人と大豆に関わる出会いから，世界にいろいろな国があり、日本との関係性に気づく。 学びの過程での気づきを自分の言葉で表現している。
③主体的に学習に取り組む態度	市内外の学校との交流や世界の人と関わる学びを楽しんでいる。 大豆を通した世界の人やものとの出会いから，自分たちにできそうなことを考えようとしている。

6. 単元設定の理由・単元の意義

【単元設定の理由あるいは単元の意義】

生活科の授業で栽培している「大豆」。同じく大豆を育てている長野市内小学校5校・新潟県・千葉県・富山県の学校や地域サポーターがオンラインで集う「友情の大豆サミット」を開催し，交流活動を行なってきた。その中で大豆輸出大国であるパラグアイについて紹介し，国内だけでなく，パラグアイの人ともつながる活動に取り組んできた。
大豆は私たちの食生活で欠かせない食品だが，1学期の給食センターからの食育クイズで大豆の国内自給率がわずかであることを知り，大豆がどこからやってきているのかへの関心が高まると同時に，私たちの食べ物が世界の国から届いていることや身の回りの食べ物と世界のつながりについて学ぶ第一歩となった。
このような学びを展開している子どもたちに，大豆サミットでの学びを通じて，身近なものが世界とつながっていることについて考える機会になることを願い，本単元を設定した。

【児童／生徒観】

本校1年生は学年合同で朝の活動や歌，授業では体育・生活・音楽などを実施している。生活科の栽培活動の一つに大豆があり，世界で大豆輸出上位国であるパラグアイで暮らす人との交流から，大豆を通じてパラグアイに興味をもっている。
また，昨年度パラグアイと交流していた2年生から教えてもらったパラグアイ「オラの歌」を毎朝歌っており，人とつながることをとても楽しみにしている。
栄養教諭との食育指導から食に関心をもっている子どもが多く，給食や食事でよく見かける大豆などの食べ物がどこから届いているのか知りたいと感じている。
いろいろな学校の子どもたちと「大豆」に関わる内容で交流している「大豆サミット」では，出会った仲間とともに学ぶことを楽しみにしている。

【教材観】
大豆の栽培を通して出会った仲間との「友情の大豆サミット」を通して，自分の思いを伝えることや仲間の思いを知る場となっている。
大豆という身近な食べ物の国内自給率から，他の食品についても知り，世界とのつながりを考える機会となる。同時に，給食用に選別した大豆を市内の小中学校で食べてもらう活動を通して，食べ物と世界のつながりを他校への発信や他校や外部講師との連携を体験する機会となり，自分たちにできることの第一歩として感じられるだろう。
日系の移民が多く暮らすパラグアイには大豆加工品がたくさんあるということをパラグアイで暮らす子どもに教えてもらったことで，パラグアイへの親しみを感じている。
生活科での大豆栽培や給食での選別など身近な大豆と関わる活動から，自分たちにできることを見える化し，さらにできそうなことを自分たちで見つけていく手がかりとする。
パラグアイ大豆農家の日系二世大西ホルヘさんは，日本とのつながりを大切に思い，わずか1％だけ非遺伝子組み換えではない大豆を栽培している理由を知り，世界と日本のつながりの深さを実感する。
本時では，大豆が世界の国とつながっていることから，栽培や給食での選別など身近な大豆との関わりを通して，今まで取り組んできた世界とつながる学習活動について，子どもたち自ら伝えたい言葉や内容を話し合うことで，取り組みを振り返る機会となるだろう。
【指導観】
授業を展開していく上で，子どもたちが世界とつながる出会いの中で感じたことやつぶやきなどを引き出しながら，子どもたちの考えや思いを結びつけることを授業者として心がけていく。
他校との交流や栄養教諭・メディアコーディネータなど外部との連携を取り入れていくことで，子どもたちの活動が広がり，深まっていくことにつながる。
大豆サミットでの交流活動や話し合い活動を通して，自分たちの身近な生活と世界とのつながりに着目していくことや，出会った人たちと思いを伝え合うことを重ね，自分も出会った人たちを大切に思う心を育てたいと願っている。本単元での子どもたちの学びを主体的に発信できる場の一つとして「大豆サミット」を活用し，世界に仲間（アミーゴ）が増えれば，きっとその仲間（アミーゴ）を大切に思い，世界のみんなが笑顔で安心して暮らせるだろうと強く願っている。

7．単元計画（全10時間）全てオンライン配信予定

時間	ねらい	学習活動	資料など
1 特活 9/1 13:45 保護者参観日	たべものはどこから（栄養教諭との授業） 身近な食べ物が世界とつながっていることを知ろう ※長野市立保科小2年生（8名）・千曲市立屋代小5年生（26名）との合同授業	交流しているパラグアイでも身近な食べ物であることを知り，自分たちの身の回りの食べ物がどこから来たのかを給食を通して考え，身近な食べ物が世界と繋がっていることを知る。 	Power Point 資料（※1） 国内自給率について（農林水産省令和5年度） 給食写真（長野市第四給食センター） 長野市第四給食センター小林梨恵栄養教諭
2 生活	パラグアイで暮らす三田村しゅんさん，大西ホルヘさんに聞いてみたいことを考え，伝え合おう 	大豆サミットで交流しているパラグアイ在住の二人に質問してみたいことを考える。 自分が伝えたいことや聞いてみたいことを共有する。 大豆サミットに参加している他校の児童と意見交換をしながら，自分の思いを伝えたり，サミットメンバーの意見を聞いたりする。	ホルヘさん VTR（2024JICA 教師海外研修パラグアイで撮影） しゅんさん VTR（イグアス日本語学校作成） Google スライド 友情の大豆サミット
3 生活	ホルヘさんやしゅんさんの回答を聞いて，さらに知りたいことややってみたいことなどを考えよう	※お返事が届いたと仮定して 質問したことや伝えたいことに対して，回答内容について知る。 回答を聞いて，つながることの楽しさを感じ，今後の学習について考える。（5・6時の内容以外にも，子どもたちの意見から展開を広げていく）	ホルヘさん・しゅんさんからのお返事

4 生活	大豆にかかわって，自分たちにできることを考えよう① ・大豆の選別に挑戦しよう（栄養教諭との合同授業）	給食の大豆を選別する活動を通して，自分たちの学びを長野市内の学校へ発信する。 栄養教諭に選別する理由や方法ついて教わり，実際に選別する。	給食用大豆 選別基準について 長野市第四給食センター小林梨恵栄養教諭
5 生活	大豆にかかわって，自分たちにできることを考えよう② ・給食を通じて，世界とつながる学習の様子を紹介しよう	自分たちの活動をどんなふうに紹介したいのかを考える。 給食でのメッセージカードにどんな内容を伝えたいのか相談する。	給食センター便り（長野市第四給食センター作成資料） 資料取り寄せ中
6 生活 本時	今までの大豆を通した活動をふりかえり，心に残ったことを伝え合おう ・友情の大豆を通して，どんな活動をしてきたのか振り返る。 ・グループで伝え合ったことをクラス全体で共有する	自分たちがこれまでに取り組んできた大豆の活動を，作成した給食センターだよりやパワーポイント資料等を活用し，これまでの学習をふりかえる。	給食センターへ集まった他校からの感想 大豆を使った給食の写真 作成した給食センターだより これまでの活動の資料
7・8 生活	心に残った活動を学年で共有し，発信しよう ・心に残った活動を学年内で共有しよう ・大豆でつながった人や取り組んだことを発表しよう ・発表練習をしよう	友情の大豆を通じてみんなとつながり，世界とつながる学びの過程をふりかえり，大豆サミットで発信する。 発信するための内容や出番などを確認する。	写真資料（選別の様子・給食センター便り作成時など） ホルヘさんしゅんさんの写真 タブレット
9～	※子どもたちのやってみたいことを展開していく		

8. 本時の展開（概略）
本時のねらい：友情の大豆を通じてたくさんの人や世界とのつながりを経験した子どもたちが，これまでに活動を振り返る活動を通して，自分が心に残っていることを伝え合う。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点（支援）	資料（教材）
導入 (8 分)	1　本時の活動について確認する。 T「昨日の給食でチリコンカンが出たね。どんな気持ちだったかな。」 S「自分たちが頑張って分けた大豆が給食で出たからうれしい。」 S「食べた人が喜んでくれてうれしかった。」 T「他の学校からもメッセージが届いたよ。」 T「大豆について，いろいろなことをやってきたね。この大豆を覚えているかな？」 S「ホルヘさんの大豆だ。」 T「大豆でどんなことをしてきたっけ？」 S「サミットをした，いろんな学校と仲良くなった，大豆をプレゼントした，大豆を植えたけど育たなかった，給食の大豆を選別した，など」 T「大豆を通してみんながこれまでに取り組んできたことを今日はふりかえり，後でみんなが心に残っていることを伝え合ってもらおうと思います。」	・前日のチリコンカンについて想起する。 ・他校の感想を伝える。 ・友情の大豆からどんなことをしてきたかを想起する。 ・振り返った後，心に残ったことを話してもらうから思い出そうね。 ・今までに大豆にかかわって活動したことを子どもたちから吸い上げ，板書する。	チリコンカン写真 友情の大豆 これまでのサミットの掲示物 パワーポイント資料 書画カメラ プロジェクター
	本時のねらい：今までの大豆を通した活動をふりかえり，心に残っていること伝え合おう。		
展開 (12 分)	2　今までに学習した内容をふりかえる。 T「友情の大豆は，どこからやってきたのかな。」 S「パラグアイ，ホルヘさんがくれた。」	・授業資料を掲示し，今までの活動を，思い起こせるようにする。 ・パラグアイホルヘさん・しゅんさんとの交流記録	今までの授業を想起できるパワーポイント資料 掲示物

	T「ホルヘさんは日本のことを大切に思ってくれていたんだよね。」 S「しゅんさんがパラグアイでも日本と同じように大豆を育ててしょうゆや豆腐にして食べているって教えてくれた。」 T「その大豆をみんなはどうしたんだっけ？」 S「植えてみた。けど育たなかった。」 S「他の学校のお友だちにプレゼントした。」 T「その学校のみんなと大豆サミットが始まったんだね。大豆サミットをやってみて，どんなことを思った？」 S「いろんな学校の人と話せるのが楽しかった，他の学校では大豆が育っていた，千葉とか遠くの学校と出会った，など」 T「給食の小林先生とも大豆の勉強をしたね。」 S「日本ではちょっとしか大豆が作られていなかった。」 T「そこで自分たちでできることの一つとして，給食の大豆を選別したね。」 S「すごくおいしかった，他の学校の人にも食べてもらえてうれしかった。」	・友情の大豆について ホルヘさんから受け継いだ しゅんさんが説明 この大豆について，どんなことをしてきたかな	給食センターだより 選別した大豆を食べた周りの感想
5分	3　ふりかえりから，自分が心に残っていることをカードに入力する。 T「大豆の活動で自分の心に残ったことをカードに書いてみよう。」	記入用のカードを活用する。 個々で入力するようにする。 複数ある場合は，その中で1つ選んで記入するよう伝える。	記入カード
12分	4　自分が心に残ったことをグループで伝え合う。 T「自分が心に残ったことをつたえてみよう。」 S「私は，大豆サミットで他の学校と話せたことが楽しかったです。」 S「ホルヘさんがパラグアイから日本のことを大切に思ってくれていたことが心に残っています。」 S「給食の大豆を分けて，みんなが喜んで食べてくれたことが嬉しかったです。」	グループの席に移動し，グループごとにカードに入力したことを話し合う。 話を聞く時は，話し手を見るように伝える。 うまく伝えられない様子が見られたら，入力したことを聞き出しながら話し合いに参加できるようにする。	グループごと
	評価の観点：今までの大豆を通した活動を振り返り，心に残ったことを伝え合っていたか。		
まとめ (8分)	5　本時をふりかえり，次時について確認する。 T「グループでどんなことを話し合ったかな。クラスのみんなにも伝えてくれる人はいますか。」 S「大豆サミットで発表するのが楽しみの人が多かった。」 S「来年は大豆を育ててみたい。」 S「サミットでも伝えたい。」 S「しゅんさんやホルヘさんにも聞いてもらいたい。」 T「今日みんなが話し合ったことを他の人にも伝えたいね。今度は1組さんとも伝え合ってみよう。」	・クラス全体に伝えたい思いやグループでの話し合いで気づいたことなどを共有する。 ・子どもたちの関心が高かった内容について，その理由など具体的な姿を紹介する。 ・似ている意見など子どもたちに問い返しながら振り返る。 ・子どもたちの言葉をつなぎながら，伝え合ったことを確認する ・次時は，学年で共有することを伝える。	(タブレット) (オクリンク)

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）
・今までの学習を振り返りながら，自分たちの活動についてグループ内で伝え合う姿が見られたか。
・友だちの意見を聞くことや一緒に考えようとする姿があったか。

10. 学習方法および外部との連携
長野市第四給食センター栄養教諭小林梨恵先生
パラグアイイグアス日本語学校大山しおん教頭先生と三田村しゅんさん（小学3年生）
パラグアイイグアス農協理事長大西ホルヘさん
友情の大豆サミット参加校と参加者：浅川小学校2年・長野市立保科小学校2年・山王小学校特別支援学級・中条小学校1･2年・東条小学校2年・芹田小学校理科専科，長野市内地域講師吉村徹さん・山本忠文さん，千曲市立屋代小学校5年，千葉県市川市立宮田小学校5年・成田市立三里塚小学校，新潟県三条市立大浦小学校1年，富山県立志貴野高等学校，東京都立新島高等学校
長野市メディアコーディネータ関亜希子先生

11. 学校内外で国際理解・授業実践を広める取り組み
・現二年生が昨年度パラグアイにかかわった学習展開をしており，そこから大豆を育てようということで，校内では連学年でのつながりから始まっている。
・地球の反対側にあるパラグアイという国で日本のことを大切に思ってくれている人たちがいることを紹介する場として「友情の大豆サミット」を立ち上げ，国際理解教育に関心をもつ校内外の指導者たちと一緒にどのようなアプローチができそうか，どんな教材が有効かなどを話し合って推進している。
・「友情の大豆サミット」では，長野市内だけでなく，他県の小学生や異学年との交流の場となっており，多様な考えと出会う場となっている。
・JICA 教師海外研修に参加経験のある教師や海外とつながりがある教師と連携し，授業で話してもらっている。
・昨年度より国際理解教育にかかわる授業を「授業 zoomer」としてオンラインで配信しており，世界中から興味関心がある人たちが授業参観できるように取り組んできた。本単元も同様に長野市メディアコーディネータと連携し，可能な限り配信予定。
・本時の話し合い活動や大豆選別の場面についてはクラスごとの実施とするが，基本的には学年全体で展開する。
・本単元を授業参観で展開することを通して，保護者への理解を深めている。

【自己評価】

12. 苦労した点　※学習活動が展開する中での苦労や，そこで見えてきた問題点を記入して下さい。
・子どもたちが授業後に感じたことや考えたことをどのように記録し，次時へとつなげていくかという点。一人ひとりの考えは異なるはずだが，授業最後に感想を出し合い共有することでふりかえりの良さにつながるが，他の人の考えを聞くことで自分の思いが薄れてしまうところがあった。
・本時の話し合いについて，小学1年生が小グループで伝え合うときに，自分たち自身で進行できるためにどのような手立てが必要かを考えた。

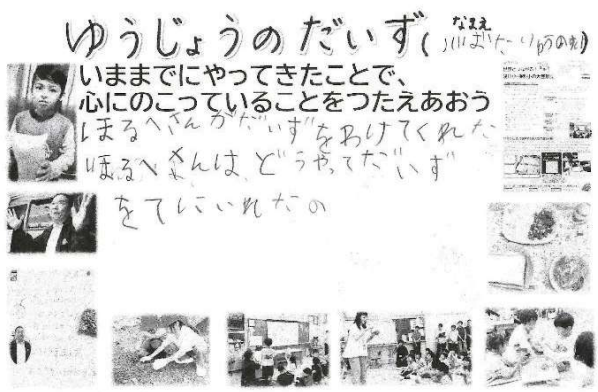
13. 改善点
・本時について，当初は「大豆サミット」で発表するために話し合うことが目標だったが，選別した大豆給食を食べたことをもとに，今までの活動をふりかえり，伝え合うことを通して，さらに誰かに伝えたいという思いが生まれるのではないかと考え，本時のねらいを変更した。
・ふりかえった内容を記録する方法として，タブレットの活用を考え，本時までの授業で活用を重ねてきたが，本時のふりかえりには，鉛筆で書きこむ形式のカードに変更した。カードにはこれまでの取り組みが思い出せるように，写真を貼り付け，また板書用のスクリーンにも同じものを映し出すようにして，記録しやすいように工夫した。
・グループで話し合った内容をクラス全体へ広げていく点について，教師が大切にしたい内容や今後の展開につながるような部分を膨らませながらまとめていくこともできたのではないかと考える。

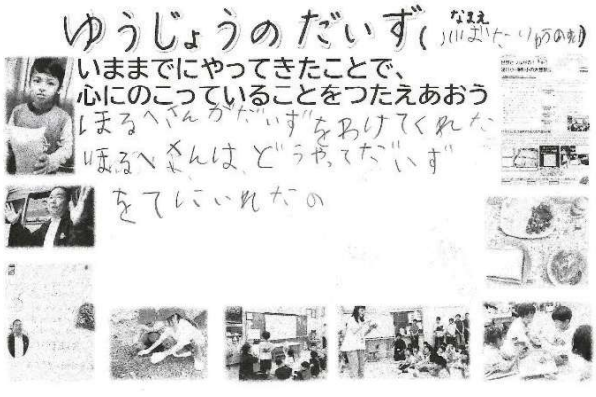
14. 成果が出た点
・自分たちが選別した大豆給食の翌日に，これまでの大豆にかかわる活動をふりかえることで，たくさんの人とつながってきたことが具体的に思い浮かべることができた。
・ホルヘさんの大豆（実物）を見せたことで，学習の原点ともいえる「ホルヘさんや世界とのつながり」について意識を向けることができた。
・大豆サミットでの発表や本時の話し合いの場面など単元を通して伝え合う活動を位置付けたことで，自分たちの暮らす長野市だけでなく，県外や世界の人たちと意見を交わし，多様な考えに出会う機会となった。
・たくさんの人とのつながる楽しさを味わったことで，世界への関心が高まり，身近なこととして感じている。
・子どもたち自身がやってみたいと思うことを提案し，授業で実現していくという経験を重ねたことで，いろいろなことに挑戦しながら創造していく楽しさを味わい，自ら行動する力を育む一歩となった。

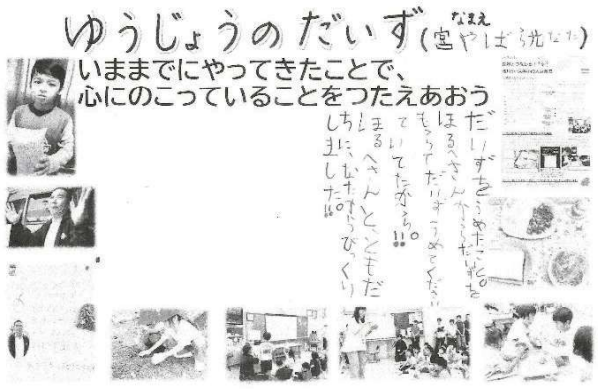
15. 学びの軌跡（児童生徒の反応・感想文・作文・ノートなど）

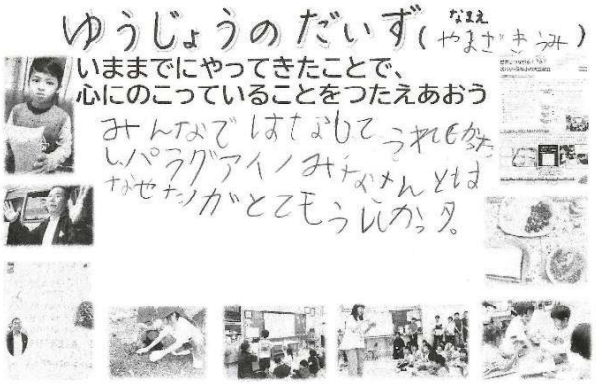
本時のふりかえりカード，子どもたちのつぶやきなどから抜粋

・参観日に給食の先生からいろいろなことを教えてもらったこと。大豆（の国内自給率）が8％なのは，びっくりした。
・ホルヘさんは，どうしてみんなに大豆をわけてくれたのか。
・ホルヘさんからもらった大豆の種をまいたこと。保科小のやり方など何度も挑戦したが，浅川小1年生は芽が出なかった。千葉の学校など育っていたのはなぜだろう。
・大豆サミットが一番心に残った。自分たちが発表することや他の学校の発表を聞くのが楽しかった。司会をできたときもあって，またやってみたいと思った。
・ホルヘさんやいろいろな人と友だちになれたこと。パラグアイの人と（オンラインで）話せたことが，とてもうれしかった。









16. 授業者による自由記述

本単元では，パラグアイ在住の日系二世ホルヘさんから受け継いだ大豆を中心に位置づけ，「友情の大豆サミット」という形で本校1・2年生に加え，市内外や県外の異学年・異校種の学校や地域，そしてパラグアイとつながり，たくさんの人と交流することができ，参会者がアイデアを持ち寄りながら新しい学びの場となったことは子どもたちだけでなく，関わる教師たちにとっても創造的で何より楽しみながら授業に臨んでおり，今後の展開についても無限の可能性を感じている。

苦労した点については，今年度担当している小学1年生が遠く離れたパラグアイについてどうすれば身近なこととして感じられるのかという点だった。毎日の給食と関連付けて，食べ物と世界のつながりを栄養教諭とともに考える大豆サミット交流で出会ったパラグアイ人のカルロスから教えてもらったスペイン語やグアラニー語の歌を毎朝継続して歌い，それらの曲を音楽会でも発表したことや，人権学習参観日の授業内容にパラグアイ友情の日の活動を取り入れるなど教科横断的な位置づけを継続した子どもたちの思いと教師の願いが織り重なり合って，子どもたちの心に残る学習となったのではないかと考えられる。

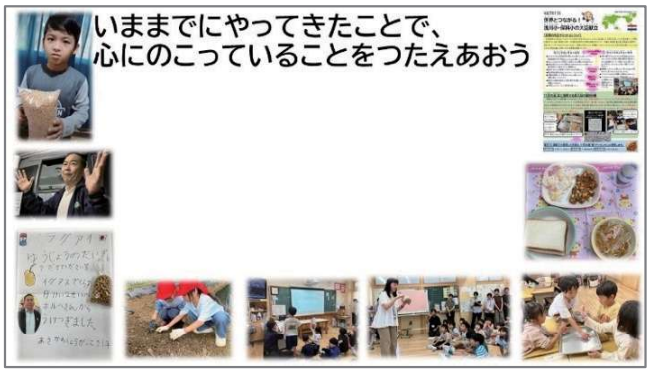
本研修を受講して，発達段階に応じた教育課程のどこに位置づくのか，どんな力をつけたいのか，扱う教材について適正であるのかなど，多面的に物事を見ることや正しい情報であるかなど展開していきたい活動が担当する学年の子どもたちにとってどのような学びであるかを考えて，本単元を展開したことは，これまでの教員人生での自分自身の授業展開についても見つめ直す機会となった。

本単元を通して，私がパラグアイで出会った人たちを子どもたち自身がまるで直接出会ったように感じ取っている姿から，教室から世界とつながり，たくさんの人とつながり，未来を創り上げていってくれるだろうと願いたい。

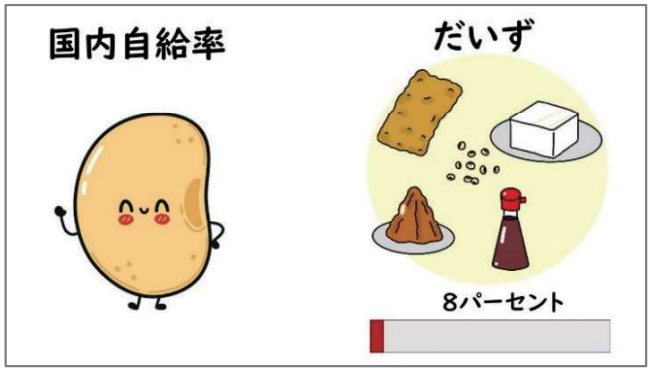
【参考資料】

- パワーポイント資料
- 農林水産省 HP:食料自給率農(令和5年度概算)
- JA 千葉 HP:子どもも大人も一緒に学ぶ「食品自給率」
- パラグアイイグアス日本語学校作成:大豆加工品 VTR
- JICA パラグアイ教師海外研修での記録:パラグアイイグアス農協理事長大西ホルヘさん VTR
- 長野市第四給食センターだより

参考資料1:本時活用スライド 「パラグアイ ゆうじょうのだいず かつどうを ふりかえろう」一部抜粋(11/12)



参考資料2:「ゆうじょうのだいずサミット　ばんがいへん～たべものは　どこから」
長野市第四給食センター栄養教諭との協働授業(9/1)



パラグアイでは，みそ，しょうゆ，とうふ，納豆，豆乳など日本と同じように大豆で作られている食品があります。
他にも，動物のえさや運動会のお手玉にも使っています。

大豆などの飼料が輸入されないと，たまご，肉，乳製品など国内自給率も下がってしまう。
卵:96%→13%、肉:53%→8%、牛乳･乳製品など63%→28%
給食で例えてみると…↓

このような状況の中で，栄養教諭の先生は，地域の食材を活用して，みんなに給食を届けてくれているんだね。
その中で，自分たちにできることは，何だろう？→給食用大豆の選別に挑戦！

給食センターだより：子どもたちの言葉をつないで，保科小とも一緒に作成。第四給食センター担当の長野市内の小中学校へ配布。QRコードで子どもたちからのメッセージを動画でも配信。

令和7年11月

長野市第四学校給食センター

世界とつながる！

浅川小・保科小の大豆献立

「友情の大豆サミット」について

昨年度浅川小2年生がパラグアイとの交流で日系二世のホルヘさんから受け継いだ「友情の大豆」。その大豆を通じて、今年度は浅川小（1・2年）・保科小（2年）・その他の市内外の小学校と地域のサポーター、千葉県・新潟県・富山県・大阪府など県外の学校、そしてパラグアイの人たちがつながり、「友情の大豆サミット」を開催しています。サミットでは、大豆の生長を通して、たくさんの人たちと交流を重ね、世界とつながる授業を展開しています。

浅川小学校1年生の感想

さまざまな学校がつながる

- ◆パラグアイでは、大豆を日本と同じように食べていると、イグアス日本語学校小学3年生のしゅんさんから聞いて、びっくりした。
- ◆ホルヘさんはどうして日本にいる私たちにも優しいのか知りたい。
- ◆日本の友だちだけでなく世界の人と会えるのがとっても楽しいし、他の学校の人と話ができて、毎回楽しみ。
- ◆自分たちのことを発表して伝えられるのが楽しい。
- ◆他の学校の様子を知ることができて、ワクワクする。
- ◆千葉県の学校では、大豆がもじゃもじゃ育っていて、長野と違うことにビックリ。
- ◆保科小の地域の先生から大豆の育て方を教えてもらい、挑戦してみました。
- ◆2年生になったら、もう一度大豆を育てたい。

パラグアイとつながる

地域の人とつながる

給食センターとつながる

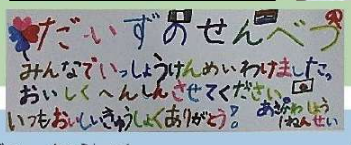
保科小学校2年生の感想

- ◆5月に浅川小からパラグアイの大豆をわけてもらった。パラグアイの大豆、日本の黄大豆・青大豆・くらかけを地域サポーターに教わりながら育てている。上手だね～すごいな～と言って教えてくれてうれしい。
- ◆地球儀でパラグアイを探したが、見つけるまで3日かかった。見つけたときはうれしかった。
- ◆パラグアイにはみそや油揚げ・豆腐まであるんだ！
- ◆パラグアイのイグアスでは、日本語を話したり、ラジオ体操をしたり、運動会があって、日本と同じだね。すごいな。

11月の給食に使用する黄大豆の選別体験

「友情の大豆サミット番外編～たべものはどこから～」では、1学期の給食センターだよりのクイズで大豆の国内自給率がとても少ないことを知り、その他のたべものについても栄養教諭の先生と一緒に調べてみました。肉や卵は、動物の飼料となる大豆等が輸入されないと自給率がかなり下がってしまうことを知り、世界の国と仲良くすることがとても大切だと感じました。これらの学習を通して、自分たちにもできることの一つとして、給食の大豆選別に挑戦することになりました。食べられるものと、食べられないもの（黒くなっているもの・穴のあいているもの）を選別しました。

浅川小からのメッセージ動画
視聴期限 2025.12.26



浅川小・保科小が選別した大豆を、11月の給食「チリコンカン」に使用します。

小1コース 11月11日(火)　小2コース 11月6日(木)　中学コース 11月12日(水)